

会 議 録

会議の名称	第23回 川越市歴史的風致維持向上協議会	
開催日時	令和7年2月20日(木) 13時30分 開会 ・ 15時00分 閉会	
開催場所	やまぶき会館 B会議室	
議長氏名	山野 清二郎	
出席委員氏名(人数)	会長 山野 清二郎 副会長 倉田 直道 委員 篠崎 幸恵 委員 原 知之 委員 佐藤 由美子 委員 岸野 泰之 委員 吉田 瑤子 委員 大成 一門 委員 佐藤 喜幸 以上9名	
欠席委員氏名(人数)	副会長 福川 裕一 委員 牧野 彰吾 委員 後藤 治 委員 藤村 龍至 委員 田口 陽子 委員 西川 亮 委員 斉藤 豊 委員 森内 優子 以上8名	
事務局職員職氏名	都市計画課 課長 眞野 和幸 文化財保護課 課長 齋木 隆 都市景観課 課長 粕谷 勝 副課長 池田 麗子 主査 平林 直 主事補 鈴木 朋子 以上6名	
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 令和6年度進行管理・評価シートについて (2) 令和7年度事業予定について 4 報告事項 (1) 川越市文化創造インキュベーション施設の開設について (2) 令和6年度川越都市景観シンポジウムについて (3) 令和6年度ふるさとづくり大賞の受賞について 5 その他 6 閉会	

配布資料	<p>次第</p> <p>委員名簿</p> <p>歴史的風致維持向上協議会条例</p> <p>歴史的風致維持向上計画の進行管理評価制度</p> <p>議題資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度進行管理・評価シート ・川越市歴史的風致維持向上計画（第2期）概要版 <p>報告資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越市文化創造インキュベーション施設（コエトコ）パンフ ・令和6年度都市景観シンポジウム速報 ・第17回かわごえ都市景観表彰 パンフ
------	---

議題・発言内容・決定事項

1 開会

◆ 資料確認

◆ 委員・事務局の紹介

◆ 協議会の成立について

委員総数17名中、9名の出席を得ており、過半数の出席があるため、川越市歴史的風致維持向上協議会条例第5条第2項の規定により、協議会が成立していることを報告した。

◆ 協議会の公開・非公開について

会議を公開することについて、各委員から「異議なし」の声を確認。公開することとした。

◆ 傍聴希望者について

傍聴希望者なし。

3 議題

(1) 令和6年度進行管理・評価シートについて

(2) 令和7年度の事業予定について

歴史的風致維持向上計画掲載事業の評価制度について、事務局から説明し、その後、資料「令和6年度進行管理・評価シート」に基づき進行管理・評価シートの内容について説明した。

(以下、質疑応答)

【屋外広告物条例に基づく措置】

(原委員)

屋外広告物条例の一部改正についてこの場で詳しく説明いただきたい。伝建地区内でも許可対象屋外広告物が追加されるということで大変関心が高い。

(事務局)

今までは禁止地域では一般広告物(第三者広告)は掲出できなかったが、条件付きで許可の対象となるよう条例改正を行った。そのため禁止地域である伝統的建造物群保存地区内でも、広告付き公共サイン、エリアマネジメント広告に

ついて掲出可能となった。

今回の条例改正後、4月1日から、鍛冶町広場のスマートごみ箱に第三者広告が掲出される予定。

(原委員)

許可の基準についてしっかりと定めていただきたい。

また、鍛冶町広場に設置されたスマートごみ箱は、周囲にごみがあふれたりせずに、使用できている。

(事務局)

現在は広告がついていないごみ箱が設置されている。

【伝統的建造物群保存活動事業への補助事業】

(原委員)

2月10日にふるさとづくり大賞を受賞した。川越町並み委員会は総務大臣賞2回目の受賞となった。選考委員長の西村幸夫先生によると、今回は設立から現在まで継続的に活動されていること、まちづくり規範の改定などが評価された。

(山野会長)

大変良いことである。

【都市計画法に基づく措置】

(原委員)

都市計画道路の縮小変更は、中央通りと書いてあったが、どの部分か？

(都市計画課長)

連雀町の交差点から仲町の交差点まで

【市民、行政による歴史的風致維持向上に資する活動】

(倉田委員)

今年度行われた、都市景観表彰の受賞作品は多くのものが歴史的風致に係るものだった。今回の取り組みにも通ずるものがあり、貢献していると評価しても良いと思う。

(事務局)

今回都市景観表彰の取り組みについては、20ページの【効果、影響等に関する報道】に記載したが、おっしゃるとおりなので、21ページの【市民、行政による歴史的風致維持向上に資する活動】でも評価させていただく。

【歴史的地区環境整備街路事業（同心町通り線）】

(山野会長)

同心町の道路はいつ着手するのか？

(大成委員)

今までいくつか歴まち事業を行い、回遊性の確保などを目的に行っているが、

人がいない道を整備して効果、成果がないのも良くないと思っている。今回整備を行った場所についても効果について調査を行っていかなければならない。道路は建物と比べて地味で目立たないので、もう少し観光客にも関心を持ってもらうようにしながら、今後進めていきたい。

(山野会長)

同心町の通りは昔に比べて商店が減り、さみしい感じになってしまっている。立門前もあまり人が通っていないように思う。

(事務局)

今年度は、通行量調査を都市景観課中心に行った。前年度比全体では6.5%減であったが、平日はかなり通行量が増えていた。また、工事を行った立門前線については平日休日ともに通行量が増加した。

【計画実現のための推進体制】

(山野会長)

この通行量調査は毎年同じ場所で行っているのか？

(事務局)

同じ場所で行っている。

(倉田先生)

数字の羅列ではなく、その意味の説明や評価を加えたほうがよい。歩行者が分散されて通行量が減ったなど説明が欲しい。

(山野会長)

通行人や近隣住民に聞いてみるのも手だ。

(事務局)

来年度は、今回の意見を参考にヒアリングをしながら進めていきたい。

【旧川越織物市場整備事業】

(山野会長)

整備工事は完了したとのことだが、織物市場はどうなったか？

(事務局)

4月1日に開設し、様々な分野のクリエイター12名が入居し、活動中である。5月に行ったオープニングイベントでは1千人来場し、以後クリエイティブゼミの開講や、高齢男性が地域に出ていかないという社会課題の解決に向け、パン作り体験などの取り組みをしている。

また、7月には、川越商工会議所、日本政策金融公庫、りそなコエドテラス、ウェスタ川越創業支援ルーム、川越市の5者で連携協定を行い、創業支援を行っている。創業セミナー等を開催した結果、1組だが法人登記を済ませた方もいる。

3月9日にコエトコピカ市を行う予定。内容はマルシェやワークショップ等。

コエトコは創業支援施設ではあるが、ある程度賑わいもあるべきだと考えている。現状では来場者数月 2,000 人程度で少ないので、それを増やしていきたい。賑わいの創出のために中庭の活用も検討しており、川越蔵の会主催の職人体験イベント、クラシックカーの展示が予定されている。地域と連携した取り組みをしながら、クリエイターが地域とつながることでビジネス参集の機会になればと思う。

(山野会長)

都市景観課の枠を超えた努力をされているように思う。大丈夫なのか？

(事務局)

条例制定時から、創業支援を都市景観課が行うのかという質問はいただいている。魅力の創出に向けたまちづくりの一環として、産業観光部と連携しながら進めている。

(山野会長)

あまり欲張ってつぶれないように気を付けてほしい。

(吉田委員)

建物を作って終わりではなく、どのように使うかが重要である。入居しているクリエイターがお祭りやイベントなどを通じて地域と関わることで、コエトコをきっかけに川越の風致維持向上につながる取り組みを担える人材を育成するという面でも今の事業は重要である。

【歴史的建造物再生・利活用マネジメントサイクルの構築】

(倉田委員)

マッチングの結果は具体的にどのような状況か？

(事務局)

今まで、川越市が活用方法などを提案しながら、所有者自身が動き、不動産屋に条件を出して市場においてマッチングし活用している事例が 3 件ほどある。今年度は市が中心となってマッチングができそうな案件が 2 件ある。市内を中心に歴史的な建造物を活用している事業者の紹介、弁天長屋の見学していただくなど橋渡しを行っている。

(倉田委員)

空き家対策という面でもマッチングを進めているケースや、それをビジネスとして行っているケースも増えている。空き家に対する法律もだんだん整備されてきている。民間の専門家と連携して支援していくとよいと思う。

民間と連携して空き家ツアーをするのもよい。川越は歴史的な建造物の資源としてたくさんあるので、民間の取り組みなど取り入れながら進めてほしい。

(事務局)

行政の弱いところが資金調達や資金計画という点であるが、現在は外部のコン

サルタントを入れてアドバイスをもらいながら進めている。歴史的建造物の使い方、直し方についてはノウハウを持つ川越蔵の会に相談したりしている。所有者がどこに相談したらいいかわからず突然壊してしまうということがないようにしたいと思っている。

(佐藤委員)

同心町通りも最近少しずつお店もできてきてはいる。

一番街に限らず、川越に出店したいという声があるので、周辺の歴史的建造物が、少し整備した状態になることでその思いにつなげるような取り組みがあればと思っている。

(事務局)

産業振興の面でも連携しながら、進めていきたいと思う。

(山野会長)

最近川越は昔ながらの商いが減って店を貸しているだけになっているのでは？

(原委員)

一番街商店街はテナントの割合7割ほど。1階はテナントに貸して、2階は自分のお店を守っていくというのも増えている。

今日オープンの菓子屋横丁のキャラクターショップなど、どうしても大きな会社が進出してきて止められないのが実態である。

(倉田委員)

このままでは町が消費されてしまう。もっと持続性のある、町の価値を高めるようなお店が増えるといい。

(山野会長)

川越の地力が感じられないようになってきた。

(原委員)

一番街商店街の現状は終わりの始まりではないかと心配している。2020年代は特にテナント問題や、オーバーツーリズム問題など出てきて、どう止めていいかわからない状況である。

(篠崎委員)

先日友人に川越を案内した。前もって友人が行きたいとネットで調べた場所が、仙波東照宮社務所カフェ ANDON だった。行く途中にコエトコを案内したところ、そこはネット検索にかからなかったようで知らなかったがとても喜んでくれた。ネット検索にはなかなか引っかからないけど、「良い場所」に普通の観光客の方を呼び込む工夫があるとよいと思った。

(原委員)

現在懸念しているのが、弁天長屋の前の空地である。弁天横丁は民間の力で活

性化して来ているので、まちづくりに逆行するような開発により、まちが消費されることが無いようにして欲しい。できれば川越市に買ってほしいが無理だとは思っている。

(事務局)

他の地域の事例を見ると、まちづくり法人で空地を買い取ってマネジメントするような、エリアを全体的にみる法人が活躍しているところもある。

屋外広告物条例の一部改正でも、エリアマネジメント団体が広告料収入を活用することで、活動を支援する仕組みも整理したので、そういった制度も活用しながら地域の皆様と一緒に取り組んでいきたい。

4 報告事項

(1)川越市文化創造インキュベーション施設の開設について

(事務局)

議事内にて説明。

(2)令和6年度川越都市景観シンポジウムについて

(事務局)

「令和6年度川越都市景観シンポジウムについて」報告した。

(3)令和6年度ふるさとづくり大賞について

議事内にて説明。

6 閉会